

隠れ脳梗塞の原因は？どんな人が危ないの？

隠れ脳梗塞は、脳動脈硬化症とよばれる『脳血管の劣化』によって、1ミリの10分の1くらいの細い血管がつまることで起こります。脳の血管の動脈硬化症は、①血圧の高い人、②コレステロール値の高い人、③糖尿病の人に起こりやすく、いわゆる生活習慣病ととても深い関係があります。多量の飲酒や喫煙も動脈硬化を起こしやすくする要因になります。また、残念ながら年齢が高くなると、血管の老化によって脳動脈硬化症は起こります。ですから、隠れ脳梗塞は、①血圧の高い人、②コレステロール値の高い人、③糖尿病の人、①～③のいずれかであって、年齢が高い（おおよそ60歳以上）人が危ない方と言えます。

隠れ脳梗塞と脳のMRI検査

脳梗塞は、ある日突然に起こります。手足が麻痺したり、言葉がしゃべりにくくなるなどの症状を起こします。でも本当は、ほとんどの脳梗塞は突然起こるものではなく、脳のMRI検査を行うことで、『とても小さな前ぶれ』を見つけることができます。MRI検査は、脳神経外科の外来で受けることができます。体の中に金属が埋まっている人など（心臓の病気でペースメーカーなどが入っている人など）、一部の人には検査ができませんが、検査台に入って30分程度安静にして寝ているだけで、脳の中を詳しく調べることができる検査です。

隠れ脳梗塞が見つかった場合には、年齢や、その人の持っている病気（高血圧、高コレステロール血症、糖尿病）に応じて、原因となっている病気の治療の強化、場合によっては脳梗塞予防のお薬（アスピリンなど）で、隠れ脳梗塞が進行しないように治療をします。また、隠れ脳梗塞の程度によっては、定期的な脳検査が必要なこともあります。

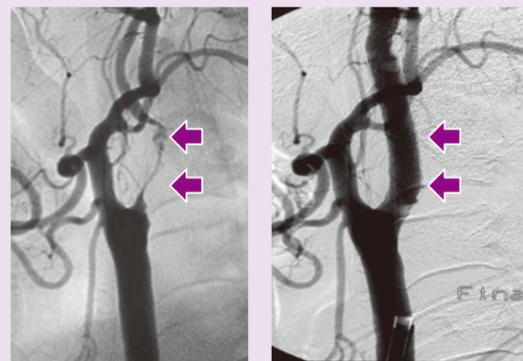
脳の検査を受けて、もしも病気が見つかったらどうしよう？という心配から、脳の検査を受けられない方もいると思います。でも、医学が進歩した現在では、お薬の治療や、最新の脳神経外科治療によって、何か脳の病気が見つかって、ほとんどの場合で、重い症状を出す前に病気の進行を阻止することができます。

血圧の高い方、コレステロール値の高い方、糖尿病のある方、また、60歳以上のご年齢の方、一度、脳のMRI検査を受けてみられてはいかがでしょうか。

経皮的頸動脈ステント留置術
（頸動脈狭窄の風船治療）

治療前

治療後



脳検査で診断された頸動脈の高度狭窄（矢印）。頸動脈の狭窄は脳梗塞を起こすため、風船で拡張させて治療。『切らずに治す（手術しない）、最新の脳神経外科治療』

脳神経外科専門外来のご案内



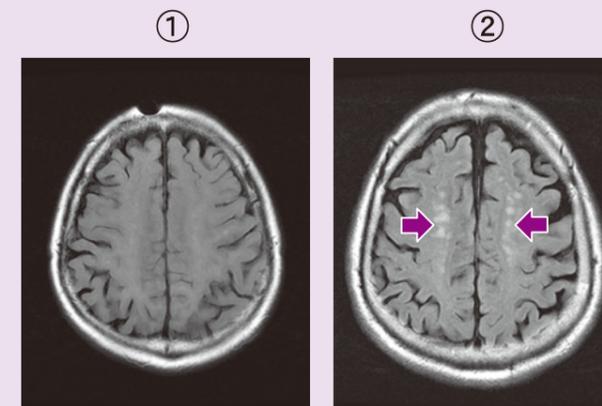
島根大学医学部 脳神経外科
教授 秋山恭彦

4月から島根大学医学部、脳神経外科より秋山教授にお越しいただき、脳血管障害・脳腫瘍の専門外来をお願いしています。

診察日時は **第1・第3金曜日**
午前10時から12時までです

隠れ(かくれ)脳梗塞と脳の健康診断

隠れ(かくれ)脳梗塞ってなに？



写真①と②は、いずれも65歳男性の脳MRI写真
②の人には『隠れ脳梗塞』が見つかった（矢印）。

隠れ(かくれ)脳梗塞というのは、なにかのきっかけで脳のCT（シー・ティー）やMRI（エム・アール・アイ）検査を受けたときに、たまたま見つかる小さな脳梗塞のことをいいます。正確には『ラクナ梗塞』といいます。

隠れ脳梗塞は、脳ドックという検診を受けると、40歳代では4人に1人、50歳代では2～3人に1人、60歳代では7割以上の人に見つかります。隠れ脳梗塞は、まさに隠れ潜んでいます。

ですので、今は何も症状がありません。しかし、隠れ脳梗塞のある人は、『数年後に、本当の脳梗塞を起こして手足が麻痺する』危険性があることが知られています。ですから少し大げさな言い方ですが、隠れ脳梗塞は、将来手足の麻痺を起こす本当の脳梗塞の『とても小さな前ぶれ』とも言えます。